

**最上地区の県立高校の再編整備計画に係る地域説明会
新庄市会場 記録**

- 1 日 時 平成24年1月23日(月) 19:00~20:30
2 場 所 新庄市民文化会館
3 出席者 地域の方々 56名
県教委 教育次長、高校改革推進室長、高校改革推進室室長補佐
高校改革専門員、高校改革主査3名

4 内 容 高校改革推進室長から計画骨子を説明後、質疑応答

5 質疑応答概要

(質問・意見)

- 他地区に進学している最上地区の中学生はどれくらいか。
- 最上地区における入学者が定員に満たなかった学校について、何人程度満たなかったのか教えて欲しい。

(県教委)

- 平成22年度及び23年度に卒業した中学生の人数を平均した数値で申し上げると、他地区の私立高校に進学しているのが約8パーセント、北村山地区及び山形地区の公立高校に進学しているのが8パーセントとなっている。
- 今年度について、新庄北高校最上校は入学定員40名に対して入学者は28名、同じく、新庄南高校普通科は120名に対して112名、新庄神室産業高校については、農業科が80名に対して75名、工業科は120名に対して91名、金山高校は80名に対して入学35名、真室川高校は80名に対して39名であった。

(質問・意見)

- 他地区から最上地区の県立高校に進学している人数を教えてください。

(県教委)

- 他地区からの進学者は、ほぼ北村山地区で占める。平成22年度は29名、平成23年度は26名が北村山地区から進学している。北村山地区の中学校卒業生の4~5パーセントに当たる。

(質問・意見)

- 私立高校の入学定員については所管内なのか。

(県教委)

- 私立高校を所管しているのは、知事部局の総務部である。
- 入学定員について、県立高校を所管している県教育委員会、総務部の私学担当、私立高校の校長による話し合いを年2回実施している。

(質問・意見)

- 県内で単位制を導入している高校はどこか。
- 単位制にデメリットはあるか。

(県教委)

- 県内の定時制課程は全て単位制を導入している。また、総合学科は単位制により教育課程を編成することを原則としている。
- 進学重視型の高校への単位制については、楯岡高校、米沢東高校、鶴岡北高校、酒田西高校に導入しており、今後は、平成25年度に寒河江高校、長井高校に導入する。
- 単位制高校は、多様な選択授業を設定することから、生徒が進路意識をしっかりと持って授業を選択できるよう教員がしっかりと指導することが大切である。
- 教員が増えることによって、科目数や部活動を増やすことが可能となることは、生徒にとってメリットが大きく、デメリットは考えにくい制度である。一方、教員にとっては、教える科目が細分化されていくので、教員が教材を研究したり授業の準備をし

たりする時間がより必要となる。

- 選択授業が増えると、教員が出張等で不在になるとき、時間割を変更することができにくくなるという大変さはある。

(質問・意見)

- 平成 24、25 年度に新庄北高校に入学する生徒と単位制はどう関わるのか。

(県教委)

- 平成 24、25 年度の入学生は、単位制ではなく学年制による教育課程を編成している。単位制による教育課程は、平成 26 年度入学生から導入となる。

(質問・意見)

- 単位制の導入によって加配される教員数はどの程度か。
- 山形市内の高校に単位制を導入していないのはなぜか。

(県教委)

- どのくらい選択授業を開設するかなどの条件によって、配置される教員数は変わるので、この場では加配される教員数を申し上げられない。
- 山形市が含まれる東南村山地区は、地区単位の再編整備を検討しておらず、山形市内に進学型の単位制高校がない理由の背景と言えると思う。

(質問・意見)

- 将来、1 学級の定員 40 名が少人数に変わったりした場合、それに伴った計画の見直しはあるのか。

(県教委)

- 現在、県立高校に「さんさんプラン」を広げる計画はない。また、高校では、習熟度別授業や理科、社会、芸術などの選択授業で 2 学級を三つに分割するなど、授業の場面ではかなり少人数指導が出来ているので、国としても高校については、生活集団としての学級を小さくするよりも教員の加配等で授業での集団を小さくする方針である。これらのことから、1 学級の定員を 40 名とした計画である。
- 1 学級の定員が変わることを想定した検討は行っていないので、見直しの有無については申し上げられない。

(質問・意見)

- 中長期的な再編整備において、定時制 1 学級は堅持するのか。
- 中長期的に 2 校程度に再編するに当たって、不登校経験がある生徒など多様な学習歴を持つ生徒への対応はしっかりなされるのか。
- 最上地区の通学事情について、どのように考えているのか。

(県教委)

- 定時制については、従来の勤労青少年のための学校という色合いが薄れ、不登校経験者や学び直しの生徒の入学が増えている現状にあることなどから、最上地区の検討委員会『報告書』では、昼間定時制を視野にしながら多様な学びの保障を提言された。これを踏まえて、今後の定時制の役割と在り方について検討していく。
- 『報告書』において、県と地元自治体が連携を図りながら、生徒の通学手段の確保について検討して欲しいという提言があったので、他県ではどのような通学支援が行われているか研究していきたいと考えている。
- 県内では、鶴岡市が温海（旧温海町）地区と朝日（旧朝日村）地区を対象に、所得制限があるが、遠距離通学生補助金として定期券価格の一部を補助している。また、朝日町は、独自に山形市内への直行バスを運行している。

以上